

宿泊セミナーFD分科会報告（1日目）

システムデザイン学部航空宇宙システム工学コース・准教授
佐原 宏典

2008年5月29日（木）首都大学東京宿泊セミナーFD分科会（於 大学セミナーハウス講堂、13時00分～17時30分）の内容について、以下、報告する。

1. 大学教育の今日的課題ー共通教育の必要性ー

絹川正吉・国際基督教大学名誉教授・元学長より「大学教育の今日的課題ー共通教育の必要性ー」に関する講演があった。学生の大学生活の重点は1992年調査時には「豊かな人間関係」であったものが、2002年調査時には「学業」となっていた。これは「勉強をさせない教員」の下で「大学生の自主性」を発揮出来ず、学生は「遊ばされていると感じる」に至る結果、存在不安から学業にその根拠を見出そうとしているものと考えられる。大学は今やユニバーサル型の時代にあり、その意図せざる結果として入試のバリアが崩壊して高等教育の質を担保しなくなった。そこでこれからの大学は付加価値をつけることが要求され、大学の役割を再考せざるを得ない。大学教育の基調は「学術基礎教育」であるが、社会が求める能力（コミュニケーション能力、主体性、協調性、等）の「学習支援」の視点が必要となっている。この視点から、ユニバーサル化した学生に対する教育内容・カリキュラム・教育方法について詳細に述べられた。

2. 大学教育の課題ー質保証システムー

2.1. 高等教育と評価ー評価間の関連と首都大学の取組

串本剛・基礎教育センター助教より、「高等教育と評価ー評価間の関連と首都大学の取り組み」に関する講演があった。大学の評価には成績評価、授業評価、教員評価、自己評価、法人評価、認証評価がある。同じ「評価」でも主客、目的、方法が非常に多様である。良くも悪くも、法人評価・認証評価が改革の推進力になっている。不可避免的に発生する作業への動機付けの為に、構造的な理解が必要であることが提示された。

2.2. 首都大学における自己点検・評価の取組

「自己点検・評価」「認証評価」「公立大学法人評価」と言う3つの評価については、いずれも大学の組織としての教育研究活動等を対象として行うものである。認証評価も公立大学法人評価も、大学が自己点検・評価の結果をまとめた「自己評価書」や「業務実績報告書」をもとに行われる。首都大学東京における自己点検・評価の実施体制、毎年度の業務実績評価、認証評価に向けた自己点検・評価の取組、各部局において期待される取組、自己点検・評価活動に関する課題について説明があった。

3. 首都大学東京の3年間

3.1. 首都大学東京が目標とする教育と教育課程

大橋隆哉・都市教養学部教授より標記の講演があった。本学の教育の課題として、分散キャンパスへの対応、全額共通基礎科目と専門科目とのバランス、教員側の体制、半期で15週の授業時間を確保することの難しさが挙げられた。将来に向けて、全額的な基礎教育科目の見直し、統一的且つ緩やかな成績評価基準へ向けての検討が提案された。

3.2. 全学共通科目のねらい

標記に関して、次の授業科目の目的、実施方法、状況について、数値データ等が示されつつ詳細な報告が行われた。

- 都市教養プログラム
宮台真司・都市教養学部教授
- 基礎ゼミナール
小林正典・都市教養学部准教授
- 実践英語
福島富士男・基礎教育センター教授
- 情報リテラシー
永井正洋・基礎教育センター教授